

令和8年度

シ ラ バ ス

SYLLABUS

保育学科

2年生



健祥会学園  
KENSHOKAI GAKUEN

# 目次

## 教養科目

日本国憲法.....	1
------------	---

## 専門教育科目Ⅰ

保育原理.....	2
子ども家庭福祉.....	3
子ども家庭支援論.....	4
保育者論.....	6
保育の心理学.....	7
子ども家庭支援の心理学.....	9
子どもの保健.....	10
子どもの食と栄養.....	11
幼児と健康.....	12
音楽表現技術Ⅰ.....	13
音楽表現技術Ⅱ.....	14
乳児保育Ⅱ.....	15
子どもの健康と安全.....	16
幼児への特別な支援.....	17
社会的養護Ⅱ.....	18
子育て支援.....	19
保育実践演習.....	20

## 専門教育科目Ⅱ

教育相談.....	21
幼児の観察と理解Ⅱ.....	22
幼児の観察と理解Ⅲ.....	23
児童文化.....	24
幼児体育.....	25
言語表現.....	26
保育実習Ⅱ.....	27
保育実習事前事後指導Ⅱ.....	28

## 特設科目

人形劇.....	30
食育Ⅰ.....	31
食育Ⅱ.....	32
まなび学Ⅱ.....	33
まなび学Ⅱ.....	34

【科目名】日本国憲法

【教員名】大西 雅章

【教員の実務経験】 有（公立高等学校の社会科教員として長年の実務経験を有する教員が講義を行う）  
無

【授業方法】 講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・2年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】「日本国憲法」の学習は、保育士・幼稚園教諭としての職務遂行や社会に生きる専門家・職業人の基礎的知識獲得のためにも重要である。授業では基本的な内容理解を深化させるとともに、現実の社会現象について考える。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 「日本国憲法」の意義と、構造の基礎を理解することができる。
2. 社会における諸現象の本質を憲法を通して理解する力を養う。
3. レポート課題作成能力を育成する。

【教科書】下村孝:日本国憲法 近畿大学九州短期大学通信教育部, 2002.

【参考書等】講義レジュメ、新聞・参考書などの切り抜き

【成績評価】 定期試験 小テスト 課題レポート（100%） その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	現代の憲法	憲法とは何かを明らかにし、日本国憲法制定の経緯、構成、基本原理について学ぶ	大西 雅章
2	国民主権と象徴、天皇	国民主権の歴史的背景や原理、天皇の地位や国事行為について学ぶ	〃
3	平和主義①	憲法第9条の解釈論、自衛隊及び日米安保条約に関する政府見解について学ぶ	〃
4	平和主義②	わが国が行ってきた国際貢献、憲法第9条と集団的自衛権の問題について学ぶ	〃
5	基本的人権①	基本的人権の歴史や日本国憲法における人権保障、基本的人権の限界について学ぶ	〃
6	基本的人権②	憲法第13条（個人の尊重）と憲法第14条（法の下での平等）をとおして包括的基本権について学ぶ	〃
7	基本的人権③	精神的自由権（思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由、表現の自由）について学ぶ	〃
8	基本的人権④	経済的自由権（職業選択の自由、財産権の保障）について学ぶ	〃
9	基本的人権⑤	社会権（生存権、教育を受ける権利、勤労の権利、労働基本権）について学ぶ	〃
10	基本的人権⑥	人身の自由と刑事手続の保障、国務請求権、参政権、国民の義務について学ぶ	〃
11	統治機構①	議会制度や権力分立をとおしてわが国の統治機構の原理について学ぶ	〃
12	統治機構②	国会の地位、国会の構成、国会と議院の権能、国会の運営について学ぶ	〃
13	統治機構③	内閣と国会の関係、内閣の組織、内閣の権能、司法権、裁判所の組織、違憲審査制、裁判の公開について学ぶ	〃
14	統治機構④	地方自治の基本原則、地方公共団体とは何か、地方公共団体の組織と権能について学ぶ	〃
15	憲法の保障と改正	憲法保障制度、憲法の最高法規性、憲法尊重擁護義務、違憲審査制、憲法改正について学ぶ	〃

【授業時間外の学習】講義時間だけでは教科書の内容全てを解説できないので、授業前までに教科書を読んで、ある程度理解しておくこと。また、新聞やテレビ等で常に情報収集に努めること。予習、復習（各2時間程度）をする。

【履修条件・注意事項】講義時間の中でできる限り理解するために、講義に対する取り組みの姿勢については厳しく指導する。

【科目名】保育原理

【教員名】友成 健悟

【教員の実務経験】 ■有（保育教諭としての実務経験のある教員がその経験を生かし、講義を行う。）  
□無

【授業方法】 ■講義 □演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・2年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】学生が、保育者としての基礎知識・方法（保育の基盤、子ども理解、保育内容、保育の計画・実践・安全、保育の歴史、保育士に求められるもの、現代の子育て支援、保育の現状と課題）を理解し、身につけることを目的とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 保育の意義や目的、保育に関する法令や制度、保育所保育指針の保育の基本について理解する。
2. 保育の思想と歴史の変遷、現状と課題について理解を深め保育士としての基礎知識を身につける。

【教科書】

保育原理 近畿大学九州短期大学

阿部和子・北野幸子:最新保育士養成講座 保育原理. 全国社会福祉協議会, 2019.

厚生労働省:保育所保育指針解説. フレーベル館, 2018.

文部科学省:幼稚園教育要領解説. フレーベル館, 2018.

内閣府、文部科学省、厚生労働省:幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説. フレーベル館, 2018.

【参考書等】適宜資料配付

【成績評価】□定期試験 ■小テスト（80%） ■課題レポート（20%） □その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	オリエンテーション	授業のオリエンテーションを行い、「これからの時代の保育」について考える。	友成 健悟
2	子どもの心の理解と育ちを育む保育の基本	保育の意義、幼稚園・保育園・認定こども園の目的について学び、理解する。	〃
3	保育の重要性と独自性	保育所保育指針に書かれている「子どもの利益を考慮した保育」について学ぶ。	〃
4	保育の意義と目的	保育の目標や意義の基本を学び、実践の基盤を作る。	〃
5	保育の制度と現状	日本における保育ニーズと保育の制度及び現状について学ぶ。	〃
6	西洋の保育思想と歴史	子どもを中心とする保育を導いた思想家たちについて学ぶ。	〃
7	日本の保育思想と歴史	日本の保育の歴史を学ぶ。	〃
8	レポート作成①	課題レポートを作成する。	〃
9	レポート作成②		〃
10	保育の方法	保育方法の基本的な考え方を理解する。	〃
11	環境構成とは	保育における環境について考え、環境構成と子どもの活動の結びつきについて考える。※小テスト実施①	〃
12	保育の計画	保育計画の必要性について学ぶ。※小テスト実施②	〃
13	多様化する保育ニーズ	子育て支援の必要性について理解し、具体的展開について考えていく。※小テスト実施③	〃
14	子どもの育ちや学びの連続性	保・幼・小の連携が求められる背景について学ぶ。※小テスト実施④	〃
15	まとめ	これまでの学びを再確認する。	〃

【授業時間外の学習】次回の授業までに予習及び復習を各2時間程度行うこと。課題レポートは、必ず期日までに提出すること。

【履修条件・注意事項】教科書とノート、筆記用具を持参すること。

【オフィスアワー】授業後の休み時間又は昼休み（1号館事務室前）

【科目名】子ども家庭福祉

【教員名】山地 貴子

【教員の実務経験】 ■有（児童福祉施設での実務経験のある教員がその経験を生かし、講義を行う。）  
□無

【授業方法】 ■講義 □演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・2年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】学生が子どもと家庭に関する幅広い内容を学習し、他の専門教科で学習した内容との関連を理解する。現代の子どもの育つ環境を踏まえ、子ども家庭福祉の理念・制度・方法について理解し、子どもや家族に関わる専門職として必要な知識を習得することを目的とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変換について理解する。
2. 子ども家庭福祉の制度や実施体系について理解する。
3. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。
4. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。

【教科書】大津泰子:子ども家庭福祉ー子どもと家庭を支援するー。ミネルヴァ書房, 2026.

【参考書等】適宜資料配付

【成績評価】□定期試験 ■小テスト（50%） ■課題レポート（20%） ■その他（提出物 30%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	子ども家庭福祉とは①	オリエンテーション、児童福祉と子ども家庭福祉の違い及び現代社会の課題について、理解する。	山地 貴子
2	子ども家庭福祉とは②	子ども家庭福祉に関する動画を視聴し、現代社会の問題点について学ぶ。	〃
3	子ども家庭福祉の歴史	他国の子ども家庭福祉の歴史を学び、日本における子ども家庭福祉の歴史について調べ、まとめる。	〃
4	子ども家庭福祉の理念と法律	児童福祉六法を中心に児童福祉に関する法律について学ぶ。	〃
5	子ども家庭福祉の機関と専門職	行政や実施機関等及び子ども家庭福祉に関わる専門職について学ぶ。	〃
6	児童福祉施設	児童福祉施設の種類とその専門性について調べ、理解する。	〃
7	子ども家庭福祉サービス①	養護を必要とする子ども、ひとり親世帯への施策について学ぶ。	〃
8	事例検討①	赤ちゃんポストに関する動画を視聴し、現代社会の問題点について考える。	〃
9	子ども家庭福祉サービス②	障がいのある子どもの施策や母子保健施設、健全育成について学ぶ。	〃
10	保育サービス	多様化する保育サービスの現状と実施状況について学ぶ。グループ討議を通して、保育士不足他について考える。	〃
11	困難を抱える子どもと家庭への支援	子ども虐待、DV、貧困家庭、外国籍の子どもとその家族、非行児童への現状と支援について学ぶ。	〃
12	事例検討②	虐待に関する動画を視聴し、現代社会の問題点や支援の視点について考える。	〃
13	少子化対策と子育て支援	少子化対策と子育て支援の流れと現状及び現在の課題について学ぶ。	〃
14	子育て支援策	地元の地域で実施されている子育て支援策について、調べ学習をする。	〃
15	小テスト、まとめ	確認のための小テストを行い、習熟度を確認する。本科目のまとめをする。	〃

【授業時間外の学習】復習を行い、講義で学んだ専門用語を確認し、内容を自分なりにノートにまとめておくこと。予習及び復習は各2時間程度行うこと。

【履修条件・注意事項】講義中は講義内容を理解することに注意を払うこと。疑問点があれば積極的に質問をすること。

【オフィスアワー】授業終了後の休憩時間（1号館事務室前）

【科目名】子ども家庭支援論

【教員名】上田 清人

【教員の実務経験】 有

無（社会福祉士資格を有する教員が講義を行う。）

【授業方法】 講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・2年・前期

【必/選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】児童虐待や貧困、不登校、いじめ等子育てする上で様々な問題が生じ、子育てに対する家庭の負担は大きい。その中で保育所・幼稚園等の現場では家庭に対する支援が重要となってくる。子育て家庭支援の基本となる事項(意義や役割、保育士としての基本姿勢、支援体制や内容など)、保護者や子どもに寄り添いながら的確に支援出来る様に必要な知識と実技について学ぶ。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解できる。
2. 保育の専門性を生かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。
3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。
4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。

【教科書】渡邊暁・橋本翼編著：実践で役立つ子ども家庭支援論. ミネルヴァ書房, 2024

【参考書等】授業において順次紹介予定

【成績評価】 定期試験 小テスト（60%） 課題レポート（40%） その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	子ども家庭支援の意義と必要性	オリエンテーション 子ども家庭支援の意義と必要性、目標と機能について、保育士等の役割について理解する	上田 清人
2	子ども家庭支援の目的と機能	児童福祉から子ども家庭福祉への転換、子供がいる全ての家庭、社会にとっての子ども家庭支援について理解する	〃
3	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義	「家庭機能の社会化」が求められる社会において、エンゼルプランと子育て支援施策等について理解する	〃
4	子どもの育ちの喜びの共有	子どもの育ちを共有する喜び、子どもの育ちのための共有、共有する方法等を理解する	〃
5	保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援	保育士の専門性、子ども・保護者理解の視点、他の専門職からみた家庭との連携方法について理解する	〃
6	保育士に求められる基本的態度	子どものウェルビーイングのために、相互理解や信頼関係をどのように築いていくかについてディスカッションする	〃
7	家庭の状況に応じた支援	家庭の状況に応じた支援の必要性について学び、子供の発達段階に応じた支援や家庭の状況に応じた支援について理解する	〃
8	地域資源の活用と自治体・関係機関との連携・協働	保育士と保育者の協働を図るため、保育現場で活用できるバリエーションの7原則、保育士の基本的態度などロールプレイ等で実践的に理解する	〃
9	子育て家庭の福祉の向上を図るための社会資源	保育所保育指針改定を踏まえて、保護者家庭及び地域と連携した子育て支援に必要な社会資源、その専門機関について理解する	〃
10	子ども家庭支援に関する政策	子どもや子育て家庭支援を行う機関や施設、地域の資源について理解する	〃
11	子ども家庭支援の内容と対象	妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援について、支援を生かす情報提供等について理解する	〃
12	保育所等利用児童の家庭への支援	保育所における子ども家庭支援の基本事項、保育所の支援の実践について理解する	〃
13	地域の子育て家庭への支援	地域子育て支援センターにおける様々な支援について理解する。 小テスト	〃

14	要保護児童およびその家庭に対する支援	要保護児童及びその家庭に対する支援、障害や慢性疾患を持つ保護者への対応について理解する	〃
15	保育の現場での子ども家庭支援現状と課題	保育現場でみる子ども家庭支援の現状と課題を踏まえて、保護者支援が子供支援へと繋がっていくことを理解する	〃

**【授業時間外の学習】**教科書を十分読んで予習（2時間程度）をしておくこと。授業終了後は、その日のうちに復習（2時間程度）を行い、内容をノートに整理しておくこと。

**【履修条件・注意事項】**講義中は講義内容を理解することに注意を払う。私語、携帯を触る事、勝手に席を離れたり、変わったりしないこと。15回の授業の中で適宜レポート作成を求める（成績に反映される。）

**【オフィスアワー】**授業後又は放課後～17：30（1号館事務室前）

【科目名】保育者論

【教員名】園木 夏江、河野 和代

【教員の実務経験】■有（保育士としての実務経験のある教員（園木）と障害のある児童や高齢者への援助経験がある教員（河野）がその経験を生かし、講義と演習を行う。）

□無

【授業方法】■講義 ■演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・2年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】学生は、保育者の役割・倫理・連携・協働等について、グループでの話し合い活動を通して考えていく。また、計画に基づく保育の実践と省察・評価を子どもの育ちと保護者の子育てを支える保育者の専門性や「保育者になる」とはどういうことかを保育場面と関連づけながら考察していく。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 保育者の役割と倫理について理解することができる。
2. 保育士の専門性について考察し、理解することができる。
3. 保育者の連携・協働について理解することができる。
4. 保育者の資質向上とキャリア形成について理解することができる。

【教科書】なし

【参考書等】適宜資料配付

【成績評価】□定期試験 ■小テスト（10%） ■課題レポート（90%） □その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	保育におけるリーダーシップ①	個々の保育者の力を十分に出し合えるようなリーダーシップについて考えていく。	園木 夏江
2	保育におけるリーダーシップ②	個々の保育者の力を十分に出し合えるように考え、実践する。	〃
3	保育の質の向上①	子どもの心と体とそれを取り巻く環境を知り、専門的な知識・技術を身に付ける。	〃
4	保育の質の向上②		〃
5	特別な配慮を要する子どもの理解と援助①	特別な配慮を要する子どもや高齢者の理解と援助、課題について実践を通して理解する。	河野 和代 園木 夏江
6	特別な配慮を要する子どもの理解と援助②		〃
7	保育者の役割と倫理	保育現場の保育士から保育者の役割や倫理、専門性等について具体的に学び、専門職になる自覚が持てるようにする。	園木 夏江
8	保育における職員間の連携・協働	保育現場の保育士から職員間の連携・協働等について具体的に学び、専門職になる自覚が持てるようにする。	〃
9	保育士の専門性①	各施設の保育士から専門職としての倫理観や責任感、使命感等について具体的に学ぶ。また、各施設の職務内容を理解し、専門職になる自覚を持つ。	〃
10	保育士の専門性②		〃
11	職業意識の向上①	様々な福祉施設での職務内容を理解し、臨機応変に実践できる体験を積む。	〃
12	職業意識の向上②	様々な福祉施設での職務内容を理解し、専門職になる自覚が持てるようにする。	〃
13	職業意識の向上③	自己の課題に気付き省察し、福祉施設で臨機応変に実践できる体験を積む。	〃
14	職業意識の向上④		〃
15	振り返り・まとめ	様々な福祉施設での職務内容を理解し、職業意識を向上し、自己のキャリアプランについて考える。	〃

【授業時間外の学習】授業内での疑問や学びを進める中で生じた不明点を、対話を通じて明確にすること。

予習及び復習は、各2時間程度行うこと。

【履修条件・注意事項】専門職を志すものとして、自覚を持って授業に臨むことを心がけること。施設を訪問する際は、社会人としてのマナーや身だしなみを整えて訪問すること。

【オフィスアワー】授業後の休み時間及び昼休み（1号館事務室前）

【科目名】保育の心理学

【教員名】原田 美代子

【教員の実務経験】有

■無（幼児教育の研究業績をもつ教員がその経験を生かし、保育・教育現場において役に立つ授業を実施する。）

【授業方法】講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・2年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】本授業では、1年次に学修した幼児の発達や心理に関する基礎的知識を踏まえつつ、保育者自身を支える心理学を中心に扱う。授業を通じて保育者として働く中で生じる感情や対人関係、自身の在り方に目を向け、自分らしく保育の仕事が続けていくための心理学的視点を学ぶ。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 保育者の仕事に伴う感情労働や対人関係の特徴を理解し、心理学的視点から自分自身の感情や行動を捉えることができる。
2. 感情調整、境界（バウンダリー）、共感と傾聴、ストレスと回復に関する考え方を理解し、保育者として自分を守りながら関わるための視点をもつことができる。
3. 自分らしい成功や働き方について、これまでの経験を振り返りながら言語化し、今後の保育実践やキャリアに活かそうとする姿勢をもつことができる。

【教科書】原口喜充：実践に活かす保育の心理学。ミネルヴァ書房

【参考書等】なし

【成績評価】定期試験（70%） 小テスト 課題レポート（20%） その他（授業内課題 10%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	感情労働とは何か	保育者の仕事が、感情の調整や表現を伴う専門職であることを理解する。感情を扱うことが業務から生じる負担や難しさを、心理学的視点から整理する	原田 美代子
2	感情労働がもたらす影響	感情労働がやりがいや専門性につながる側面と、疲労や消耗につながる側面を理解し、保育者が陥りやすい状態について考える。	〃
3	感情調整①	出来事そのものではなく、出来事の捉え方によって感情が生じることを学ぶ。同じ場面でも感じ方が異なる理由を整理する。	〃
4	感情調整②	感情を抑えるだけでなく、捉え直しや距離の取り方など、複数の感情調整の方法があることを理解し保育現場での活用を考える。	〃
5	境界（バウンダリー）①	援助職において、関わることと抱え込みすぎることの違いを理解する。保育者が自分を守る必要性について考える。	〃
6	境界（バウンダリー）②	保育者としての役割と限界を整理し、子ども・保護者・同僚との適切な距離の取り方について考える。	〃
7	共感と傾聴	共感的理解と傾聴の基本を学び、相手の話を尊重して聴くことが関係性や自己理解に与える影響を理解する。	〃
8	チームで働くための心理学①	立場や役割によって見え方や感じ方が異なることを理解し、職員間のすれ違いが生じる背景を考える。	〃
9	チームで働くための心理学②	自分がチームの中で果たしやすい役割や、負担を感じやすい状況を整理し、協働するための自己理解を深める。	〃
10	自分らしく働く①	アダム・グラントの知見と自分らしい成功について考える。	〃

11	自分らしく働く②	グループディスカッションを通じて、自分の特性を活かしながら社会で働く在り方について考える。	〃
12	ストレスと回復の心理学	ストレスは避けられないものであることを理解し、折れにくく回復する力（レジリエンス）の重要性を学ぶ。	〃
13	保育者としてのアイデンティティを模索する	保育者としてどのように成長していくのかを考え、専門職としての自己像を整理する。	〃
14	経験を語り直す — ナラティブの心理学	実習やこれまでの経験を語り直すことで、出来事に新たな意味を見出し、自己理解を深める。	〃
15	まとめ	これまで学んだ理論について振り返り、整理する	〃

**【授業時間外の学習】** 各授業日前にテキストの該当範囲を読み、内容をよく理解しておくこと。予習及び復習は各2時間程度行うこと。

**【履修条件・注意事項】** 3分の1以上欠席した受講生には単位を認定しない。

【科目名】子ども家庭支援の心理学

【教員名】山地 貴子、川浦 昭彦、小谷 盛子

【教員の実務経験】有

■無 (児童福祉施設等で実務経験がある保育士 (山地)、実務経験のある医師 (川浦)、障害児施設で実務経験がある教員 (小谷) が保育士に必要な子ども家庭支援に関する講義を行う。)

【授業方法】■講義 ■演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・2年・後期

【必/選・単位数(時間数)】必修・2単位 (30時間)

【授業概要と目的】学生が子どもの現在の姿を形作っている発達や家庭環境を理解し、子どもや子どもを取り巻く人々の発達と健康を支援する保育者になるために、家庭における子どもの発達と家族の役割について学ぶことを目的とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。
2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。
3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。
4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。

【教科書】本郷一夫・神谷哲司編者:シードブック子ども家庭支援の心理学. 建帛社, 2019.

【参考書等】適宜資料配付

【成績評価】■定期試験 (60%) 小テスト 課題レポート ■その他 (提出物 40%)

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	発達の特徴①	オリエンテーション、子ども家庭支援の心理学とは乳幼児期から学童期にかけての発達の特徴を学ぶ。	山地 貴子
2	発達の特徴②	思春期から青年期の発達の特徴について学ぶ。	小谷 盛子
3	発達の特徴③	成人期から高齢期の発達の特徴について学ぶ	〃
4	高齢者支援について	VR体験を通して、認知症がある高齢者支援について学ぶ。	山地 貴子
5	家族システムと家族発達	家族の構造と機能を理解し、支援することを理解する。	〃
6	養育スタイルの形成過程と世代間伝達	日本の子育て環境や親としての養育スタイルの形成過程、愛着の世代間伝達について学ぶ。	〃
7	子育て環境の社会的変化	戦後日本の家族の変遷から現代日本社会における子育て家族の諸課題と支援の意味について学ぶ。	〃
8	ワーク・ライフ・バランスとは	ライフコースとワーク・ライフ・バランスについて学び、自分の理想のライフコースについて考える。	〃
9	多様な子育て家庭への支援	多様な子育て家庭に関する事例検討をしながら、支援のポイントについて学ぶ。	〃
10	特別な配慮を必要とする家庭への支援	特別な配慮を必要とする家庭に関する事例検討をしながら、支援のポイントについて学ぶ。	〃
11	子どもを取り巻く環境	子どもを取り巻く生活環境と心身の健康について調べ、子どもの安心安全な環境について学ぶ。	〃
12	心と健康	心の健康の基礎知識や精神障がいについて学び、心の健康を保つための関わる際の配慮点や大切なことについて考える。	川浦 昭彦
13	災害と子ども	災害と精神的健康など、災害時に保育者に求められることについて調べ、まとめる。	山地 貴子
14	発表	災害の対応について、各自発表を通してお互いに学びを深める。	〃
15	障がいのある子どもまとめ	障がいのある子どもの理解と対応について学び、命の大切さについて考える。 本科目のまとめを行う。	〃

【授業時間外の学習】子どもを取り巻く環境に関するニュース事項に関心を持ち、自分なりの考えを整理しておくこと。十分な理解を得るために、予習及び復習 (各2時間程度) を行うこと。

【履修条件・注意事項】講義内容を理解することに注意を払うこと。積極的に自分の意見を述べ、疑問点があれば質問すること。

【オフィスアワー】授業後の休み時間 (1号館事務室前)

【科目名】子どもの保健

【教員名】武田 英二

【教員の実務経験】有

無（医師の免許及び経験を有する教員が医療的内容に関する講義を行う。）

【授業方法】講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・2年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】学生は、子どもの体の発育、発達および生理的機能を理解する。また、身体、運動、精神機能の発達を理解し、発達障害やメンタルヘルスの理解、生活の意義について学習する。

【到達目標】学生が、子どもの保育に必要な子どもの発育、発達および生理機能を学び、さらに最新の知識も修得することができる。

【教科書】丸尾良浩・竹内義博編:新版よくわかる子どもの保健. ミネルヴァ書房, 2021.

【参考書等】適宜資料配付

【成績評価】定期試験（100%）小テスト 課題レポート その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	身体発育と保健①	発達とは、身体発達値の評価	武田 英二
2	身体発育と保健②	身長、体重のバランス、肥満とやせ	〃
3	生理機能の発達と保健①	自律神経、体温、水分代謝と発熱	〃
4	生理機能の発達と保健②	循環、呼吸、消化吸収	〃
5	生理機能の発達と保健③	排泄、睡眠、感覚器官、免疫	〃
6	小児保健①	小児保健とは	〃
7	小児保健②	わが国の小児保健水準、母子保健	〃
8	運動機能の発達と保健	新生児から学童期の以降の運動機能の発達	〃
9	精神機能の発達と保健①	言語の発達、社会性の発達	〃
10	精神機能の発達と保健②	発達を評価する	〃
11	精神機能①	精神保健とは	〃
12	精神機能②	生活習慣や行動上の問題	〃
13	精神機能③	母親のメンタルヘルス、虐待	〃
14	生活と健康①	乳児、幼児の生活	〃
15	生活と健康②	集団生活	〃

【授業時間外の学習】講義で習った専門用語や内容を確認し、ノートにまとめる。予習及び復習は各2時間程度行うこと。

【履修条件・注意事項】講義には教科書、ノートを持参する。まじめに受講し、質問などにより講義内容の理解に努める。

【オフィスアワー】火曜日、水曜日、木曜日の16:30～17:00（1号館又は事務室前）

【科目名】子どもの食と栄養

【教員名】篠宮 幸子

【教員の実務経験】有

無（大学での教員の実務経験を生かし子どもの食と栄養に関する講義、演習を行う。）

【授業方法】講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・2年・前期

【必/選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得し、食育の意義・目的を理解し、保育所等において実践できる能力を身につける。また、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」等や特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解し、対処できる力を養うことを目的とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 食生活の意義や栄養の基本的知識について説明することができる。
2. 食生活において子どもの発達段階に応じた対応や特別な配慮を要する子どもに対する適切な対応について説明することができる。
3. 子どもたちが望ましい食生活を身につけられるような食育の実践方法について説明することができる。

【教科書】二見大介・齋藤麗子:新保育ライブラリ 子どもの食と栄養【新版】. 北大路書房, 2020.

【参考書等】適宜紹介する。

【成績評価】定期試験（80%） 小テスト 課題レポート（20%） その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	子どもの健康と食生活の意義	子どもの心身の健康と食生活、子どもの食生活の現状と課題について学ぶ。	篠宮 幸子
2	栄養に関する基本的知識①	栄養の基本的概念と3大栄養素について学ぶ。	〃
3	栄養に関する基本的知識②	5大栄養素、日本人の食事摂取基準について学ぶ。	〃
4	栄養に関する基本的知識③	食品の基礎知識、献立作成・調理の基本について学ぶ。	〃
5	妊婦・授乳婦の栄養ケア・マネジメント	妊娠期・授乳期の栄養・食生活について学ぶ。	〃
6	子どもの発育・発達と食生活	発育・発達と栄養・食生活、摂食機能の発達について学ぶ。	〃
7	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活①	乳児期の心身の特徴と食生活、乳汁栄養について学ぶ。	〃
8	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活②	離乳の意義とその進め方について学ぶ。	〃
9	幼児期の心身の発達と食生活	幼児期の心身の特徴と食生活、間食、お弁当について学ぶ。	〃
10	学齢期・思春期の心身の発達と食生活	学齢期・思春期の心身の特徴と食生活および学校給食について学ぶ。	〃
11	特別な配慮を要する子ども、障害のある子どもの食生活	体調不良の子どもへの対応、食物アレルギー、障害の特徴と食生活について学ぶ。	〃
12	児童福祉施設における食生活	児童福祉施設の特徴と食生活について学ぶ。	〃
13	生涯発達と食生活	生涯発達と加齢変化、成人期、高齢期の食生活について学ぶ。自分の食生活を診断する。	〃
14	食育の基本と内容・方法	食育の基本的考え方と方法について学ぶ。	〃
15	まとめ	第1回から15回までの講義をふりかえり本講義の意味を再確認しまとめを行う。	〃

【授業時間外の学習】教科書を読んで予習、復習（各2時間程度）をする。日々の食事の回数や内容をチェックする。食品表示を見るなど食と栄養に関することに興味をもち情報収集して学習に生かすこと。

【履修条件・注意事項】新型コロナウイルスの感染防止をはじめ衛生管理を心がけ健康に気をつけること。

【科目名】 幼児と健康

【教員名】 友成 健悟

【教員の実務経験】 有（保育士としての実務経験のある教員がその経験を生かし、演習を行う。）  
無

【授業方法】 講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】 保育学科・2年・前期

【必/選・単位数(時間数)】 必修・1単位（15時間）

【授業概要と目的】 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等、保育所保育指針に示される保育の内容を踏まえて、「幼児と健康」の観点から、子どもの生活や遊びを豊かにするため、子どもの健康や運動を中心に必要な技術や知識を学び実演する。

【到達目標】 学生は以下のことをすることができる。

1. 乳幼児期における発達の特徴について説明できる。
2. 発達に応じた運動遊びを実践できる。
3. 乳幼児期における遊びとしての運動の在り方について説明できる。

【教科書】 なし

【参考書等】 岩崎洋子：保育と幼児期の運動遊び。法文書林，2018。

【成績評価】 定期試験 小テスト（20%） 課題レポート（30%）

その他（指導案 20% 発表 30%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	幼児期の運動について学ぶ	運動はなぜ幼児に大切（必要）なのか、また運動することで期待できる効果について考える。	友成 健悟
2	遊び・生活と運動について	①生活としての運動②遊びの中の運動③動機づけと運動	〃
3	運動指導について考える	4, 5 歳児の発達を捉え、実際に連携授業で園児と関わることを想定し、道具を扱わない運動とフラフープやボールなど、道具を扱う運動やレクリエーションについて考え、指導案を作成する。（※小テスト実施）	〃
4	連携授業実践内容を決定する	前回立てた指導案を一人一人発表し、発達に合ったもの、子どもが理解し楽しめるものであるかなど意見を出し合い、4つの運動遊びを決定し、グループ分けを行う。	〃
5	指導案作成準備	作成した指導案をもとに、ねらいや1グループ15分の活動内容を見直し、役割分担を行い、準備等に取りかかる。	〃
6	リハーサル準備	幼児の発達、年齢に合った声かけや援助の仕方をグループ全員が把握し、模擬的にリハーサルを行う。	〃
7	実践	子どもとの関わりを通して子どもへの理解、及び保育者の技術について実践的に学ぶ。	〃
8	振り返り	実施後、授業の振り返りを行う。	〃

【授業時間外の学習】 予習及び復習は、各2時間程度行う。日々の新聞やニュース等を通して幅広く健康に関して興味を持ち、自身の健康や安全に心がけること。

【履修条件・注意事項】 主体的・積極的な授業への参加を心がけること。

【オフィスアワー】 授業後の休み時間又は昼休み（1号館事務室前）

【科目名】音楽表現技術Ⅰ

【教員名】大戸井 啓子、美馬 愛子

【教員の実務経験】■有（未就学児個人指導、障がい児者指導、施設等の音楽療法、他大学の学生指導等の実務経験のある教員（大戸井）と保育士としての実務経験のある教員（美馬）がその経験を生かし、講義・実技演習を行う。）

□無

【授業方法】■講義 ■演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・2年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】学生は、1年で学んだ基礎知識、実技を補充する。また、保育現場（実習）で対応できるよう、ピアノ及び歌唱力を習得する。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 実習で直接関わる曲を学び、豊かな声で歌うこと・確実に弾くことを習得する。
2. あいさつ、季節の曲、実践に役立つ曲の弾き語りができる。
3. 基礎楽典の全理解ができる。
4. 学内設備を活用し、実技能力を身に付ける。

【教科書】

平松愛子：音楽ピアノ教本，近畿大学九州短期大学，2020

久世安俊：音楽声楽教本，近畿大学九州短期大学，2020

小林美実：こどもの歌 200. チャイルド本社，2015

【参考書等】準備した楽譜・資料、適宜プリントを配付する。

【成績評価】■定期試験（筆記試験 10% 実技試験 80%） □小テスト ■課題提出（10%） □その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	個々の進度チェック・課題曲発表	個々の状況の把握、ピアノの実技力、読譜力の確認	大戸井 啓子
2	コード奏法と実践に向けての引き語り習得とする。 多くの幼児歌を歌う。	ピアノ教本；No.2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 12. 14 幼児歌を正しく歌う。コード（D・B♭・A）	〃
3			〃
4			〃
5			〃
6	音楽や楽譜に合わせて楽器を自由に演奏する	リズム楽器・ベル・トーンチャイムを使い合奏する。合奏曲を正しく歌う。	〃
7	コード奏法を習得し、多くのこどものうたを弾く（引き語り）	<ピアノ> 個々の進度によるピアノ課題曲（子どもの歌等）	大戸井 啓子 美馬 愛子
8	ピアノの基礎テクニックを身につける	ピアノ教本	〃
10	声楽の基礎を復習し、しっかりと大きな声で歌うことを習得する	No.15. 18. 20. 21. 26. 27. 34. 36. 37. 38. 41 上記以外の課題曲の習得	〃
11	個々の読譜力のチェック	<声楽>	〃
12	音楽療法について	季節・行事・童謡曲、文科省唱歌等 歌唱	〃
13	課題曲を正確に弾く。合格ラインまで習得。	前期ピアノ課題曲・試験曲を優先に弾く。 試験曲を優先に歌う。	〃
14	身につけた歌唱力で課題曲を正確に歌う	総復習	〃
15			大戸井 啓子

【授業時間外の学習】到達していない課題、不明点を認識し、到達曲の維持のため復習を（2時間程度）する。次回行う課題・課題曲を明確にし、予習（2時間程度）を行う。学内設備を活用し、課題到達のため、技術向上の努力をする。

【履修条件・注意事項】教科書・ワーク（上・下）・五線紙・プリントはファイルに入れ常時持参すること。受講に当たって楽譜等の必需品を確認し、他人の物を借りないこと。課題を時間内に行うこと。実技練習中は取り組み態度を厳しく指導する。目標達成後は技術向上のため、より高度の曲に取り組む。質問は積極的に行うこと。

【科目名】音楽表現技術Ⅱ

【教員名】園木 夏江

【教員の実務経験】■有（保育士としての実務経験のある教員がその経験を生かし、保育の音楽表現について演習を行う。）

□無

【授業方法】□講義 ■演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・2年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】音楽による表現を主として、『幼児と音楽表現』での学修をもとに、様々な角度から自己を表現し、保育者に必要な音楽表現技術の知識を身に付け、楽器演奏や子どもへの音楽表現遊びに役立てる。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 音楽表現の分野における子どもの発達と発達段階に応じた『あそび』について理解できる。
2. 保育現場での楽器活動の基礎指導ができる。

【教科書】なし

【参考書等】適宜資料配付

【成績評価】□定期試験 □小テスト ■課題レポート(20%) ■その他(指導案・添削・発表等 80%)

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	リズム遊び・伝承遊び	体を使った表現遊びや伝承遊びを学び実践する。	園木 夏江
2	楽器遊び (手作り楽器) ①	手作り楽器を作り、音のおもしろさや音を合わせる楽しさを体験する。	〃
3	楽器遊び (手作り楽器) ②	手作り楽器を使った表現遊びをグループでの話し合い活動で立案する。	〃
4	楽器遊び (手作り楽器) ③	立案した表現遊び(楽器)を発表し、振り返ることで次に繋げる。	〃
5	音楽表現遊び (パラバルーン) ①	パラバルーンをのびのびと表現しながら表現力や自主性、協調性の大切さを学ぶ。	〃
6	音楽表現遊び (パラバルーン) ②	パラバルーンを使った音楽表現をグループでの話し合い活動で立案する。	〃
7	音楽表現遊び (パラバルーン) ③	立案した表現遊び(パラバルーン)を発表し、振り返ることで次に繋げる。	〃
8	手話とは何か	手話を使った基本的な挨拶や簡単な手話歌を学ぶ。	〃
9	手話歌・楽器演奏 ダンス①	子どもが興味を持てるような手話歌や楽器演奏、ダンス等、グループでの話し合いを通して考える。	〃
10	手話歌・楽器演奏 ダンス②		〃
11	手話歌・楽器演奏 ダンス発表③	手話歌や楽器演奏、ダンス等を発表する。発表を振り返り、グループでの話し合い活動を通して改善する。	〃
12	手話歌・楽器演奏 ダンス④	実践を繰り返し、音楽表現技術を習得する。	〃
13	手話歌・楽器演奏 ダンス⑤		〃
14	実践	習得した音楽表現技術を実践する。	〃
15	実践・まとめ	音楽表現技術を様々な場面に応じて実践し省察する。	〃

【授業時間外の学習】次回の授業までに予習及び復習は、各2時間程度行うこと。配付資料はファイル等にまとめること。

【履修条件・注意事項】主体的・積極的な授業への参加を心がけること。話し合い活動等に積極的に参加すること。表現遊びの際は、動きやすい服装で出席すること。

【オフィスアワー】授業後の休み時間及び昼休み（1号館事務室前）

【科目名】乳児保育Ⅱ

【教員名】園木 夏江

【教員の実務経験】 有 (保育士としての実務経験のある教員がその経験を生かし、演習を行う。) 無

【授業方法】 講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・2年・前期

【必/選・単位数(時間数)】必修・1単位 (15時間)

【授業概要と目的】学生は多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解し、実技を通して具体的に学ぶ。また、必要に応じて適宜話し合い活動等を取り入れ、理解の習得や主体的な態度の育成にもつなげていくことを目的とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解できる。
2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について具体的に理解できる。
3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解できる。
4. 乳児保育における計画の作成について、具体的に理解できる。

【教科書】志村聡子：はじめて学ぶ乳児保育. 同文書院, 2018.

【参考書等】適宜資料配付

【成績評価】 定期試験 小テスト (90%) 課題レポート (10%) その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	乳児との触れ合いの基本	よこ抱き・たて抱き・おんぶの方法や乳児とのふれ合いの基本を理解し、実技を通して学びを深める。	園木 夏江
2	乳児の衣服の基礎知識	衣服の特徴や着脱、おむつ替えのポイントと注意点を理解し、実技を通して学びを深める。	〃
3	授乳の仕方や離乳食の基礎知識	調乳の方法や授乳の仕方、離乳食の介助のポイントと注意点を理解し、実技を通して学ぶ。	〃
4	乳児の体を清潔に保つために①	沐浴や清拭の方法やポイントと注意点を具体的に理解し、実技を通して学ぶ。	〃
5	乳児の体を清潔に保つために②ベビーマッサージ	乳幼児とその保護者がスキンシップを通して、親子の絆を深め、子どもの発達を促すことができる方法を学ぶ。	〃
6	保育所等における子育て支援①	保育所等における子育て支援の基本、園の特性を活かした支援を理解し、子育て支援について考え、話し合い活動を通して指導案を作成、実践、改善を行う。	〃
7	保育所等における子育て支援②	指導案を基に子どもとその保護者を理解し、臨機応変に実践できる体験を積む。	〃
8	振り返り・まとめ	指導案を基に実践し、省察等、話し合い活動を通して振り返る。チャイルドマウス作成から乳児の安全管理について考える。	〃

【授業時間外の学習】授業内での疑問や学びを進める中で生じた不明点を、対話を通じて明確にすること。

予習及び復習は各2時間程度行うこと。配付資料はファイル等にまとめること。

【履修条件・注意事項】主体的・積極的な授業への参加を心がけること。話し合い活動等に積極的に参加すること。施設を訪問する際は、社会人としてのマナーや身だしなみを整えて訪問すること。

【オフィスアワー】授業後の休み時間又は昼休み (1号館事務室前)

【科目名】子どもの健康と安全

【教員名】藤川 麻理彩

【教員の実務経験】有

■無（看護師資格を持ち、小児科現場で臨床経験のある教員が、保育に携わるうえで重要なところからだの知識、および技術についての講義、演習を行う）

【授業方法】■講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・2年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位（15時間）

【授業概要と目的】子どもの健康の保持・増進、並びに健やかな生活を送るうえで重要な安全の確保について理解する。

【到達目標】子どもの疾病や障害の対応だけでなく、心身の健康増進と健やかな生活の確立を目指すうえで必要な知識と技術について理解することができる。

【教科書】小林美幸：子どもの健康と安全演習ノート 改訂版第3版. 診断と治療社, 2024.

【参考書等】適宜紹介する。

【成績評価】■定期試験（100%） 小テスト 課題レポート その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助	子どもの健康と保育環境 子どもの保健・個別対応と集団全体の健康と安全	藤川 麻理彩
2	保育における健康及び安全の管理	衛生管理 事故防止と安全対策 危機管理と災害への備え	〃
3	子どもの体調不良などに対する適切な対応①	体調不良や障害が発生した場合の対応と応急処置	〃
4	子どもの体調不良などに対する適切な対応②	救急処置	〃
5	子どもの体調不良などに対する適切な対応③	子どもの心肺蘇生法	〃
6	子どもの感染症の対策	感染症の集団発生の予防 感染症発生時の罹患後の対応	〃
7	保育で必要な保健的対応①	保育における保健的対応の基本的な考え方 3歳未満児への対応	〃
8	保育で必要な保健的対応②	個別的な配慮を要する子どもへの対応	〃

【授業時間外の学習】その日のうちに復習を行い、講義で指摘された箇所は確認し自己学習ノートにまとめておくこと。予習及び復習には各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】講義中は私語を慎み講義内容に集中し理解に努めること。疑問点があれば積極的に質問をすること。

【オフィスアワー】毎週月曜日の昼休み 12:30～13:00（1号館事務室前）

【科目名】 幼児への特別な支援

【教員名】 山地 貴子

【教員の実務経験】 有（保育士としての実務経験のある教員がその経験を生かし、演習を行う。）  
無

【授業方法】 講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】 保育学科・2年・前期

【必／選・単位数(時間数)】 必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】 学生が、インクルーシブ教育等に関する理念や障害児・者及びその支援について理解することを目的とする。また、個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解し、子どもとの関わりに生かせるようになる。

【到達目標】 学生は以下のことをすることができる。

1. 特別な支援を必要とする方の心身発達と心理的特性および学習の過程を理解する。
2. 特別な支援を必要とする方への支援方法について例示することができる。
3. 関係機関・家庭と連携して支援体制を構築することの必要性を理解する。

【教科書】 尾崎康子・小林真編：よくわかる障害児保育 第2版.ミネルヴァ書房, 2018.

【参考書等】 適宜資料配付

【成績評価】 定期試験 小テスト（80%） 課題レポート（20%） その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	障がい児保育とは①	オリエンテーション、障がい児保育とは何か	山地 貴子
2	障がい児保育とは②	保育時に支援が必要な子どもの全体像について理解する。	〃
3	自閉症スペクトラム障がい	自閉症スペクトラム障がいの特徴と保育での支援について理解する。	〃
4	ADHD	注意欠如・多動性障がいの特徴と保育での支援について理解する。	〃
5	学習障がい・発達性協調運動障がい	学習障がい、発達性協調運動障がいの特徴と保育での支援について理解する。	〃
6	視覚障がい・聴覚障がい	視覚障がいと聴覚障がいの特徴とその支援について理解する。また、運動場面での指導上の配慮点について学ぶ。	〃
7	肢体不自由・言語障がい	肢体不自由（脳血管障がい・脊髄損傷・切断等の後天的な障がいも含む）・言語障がいの特徴とその支援について理解する。また、運動場面での指導上の配慮点について学ぶ。	〃
8	知的障がい	知的障がい及び内部障がいの特徴とその支援について理解する。また、運動場面での指導上の配慮点について学ぶ。	〃
9	「通級による指導」と「自立活動」	特別支援教育における「通級による指導」と「自立活動」について理解する。	〃
10	就学前の小学校との連携	障がいのある子どもの就学に際して、教師がどのように連携して行くことが必要かを理解する。	〃
11	特別支援教育の計画	「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」について学び、両者の関連を理解する。	〃
12	保護者支援	乳幼児期の先を見通した支援やライフステージに合わせた継続した家族支援について学ぶ。	〃
13	外部機関との連携	幼児を教育する際に、連携すべき外部機関との連携とその留意点について理解する。	〃
14	特別な教育的配慮	貧困や母国語に違いによる困難さを抱えた幼児への配慮について理解する。	〃
15	小テスト、まとめ	本科目の小テストを行い、習熟度を確認する。	〃

【授業時間外の学習】 ニュースなどで取り上げられる障がい児・者への支援に関する情報に関心を持つこと。予習及び復習は各2時間程度行うこと。

【履修条件・注意事項】 講義中は講義内容を理解することに注意を払うこと。疑問点があれば積極的に質問をすること。

【オフィスアワー】 授業後の休み時間及び昼休み時間（1号館事務室前）

【科目名】社会的養護Ⅱ

【教員名】山地 貴子

【教員の實務経験】 有（保育士としての實務経験のある教員がその経験を生かし、演習を行う。）  
無

【授業方法】 講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・2年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位（15時間）

【授業概要と目的】学生は施設養護に焦点をあてて、各種児童福祉施設における目的と機能、責務などを理解する。実践的な保育力を培うために事例検討を通して、実際の場면을想像しながら具体的な子どもとの関わりのスキルを身に付けることを目的とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。
2. 施設養護および家庭養護の実際について理解する。
3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。
4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。
5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。

【教科書】喜多一憲:社会的養護Ⅱ. みらい, 2019.

【参考書等】適宜資料配付

【成績評価】 定期試験（50%） 小テスト 課題レポート（10%） その他（提出物 40%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	社会的養護の基礎理解	オリエンテーション、社会的養護Ⅰの振り返り 社会的養護における子どもの理解、支援の方法について学ぶ。	山地 貴子
2	社会的養護における支援内容	施設養護の展開とその内容及び家族支援について学ぶ。	〃
3	支援計画と記録・評価	個別支援計画について学び、その記録や評価について理解する。	〃
4	社会的養護に関わる専門技術	保育士及び社会的養護に関わる職員の役割と倫理について理解する。	〃
5	児童養護施設の見学	児童養護施設を見学し、社会的養護の実際について疑問点等を確認し、学びを深める。	〃
6	社会的養護の実際① (養護系施設)	児童養護施設の見学を通して学んだことをまとめ、児童福祉施設の役割について改めて考える。	〃
7	社会的養護の実際② (家庭養護・障害児系施設)	家庭養護及び障害児系施設の事例についてグループ討議を行い、学びをまとめる。	〃
8	社会的養護の課題と展望 まとめ	社会的養護の課題と展望について理解し、本科目のまとめを行う。	〃

【授業時間外の学習】社会的養護Ⅰについて復習しておくこと。講義後、専門用語を確認し、自分なりにノートにまとめて理解すること。予習及び復習は各2時間程度行うこと。

【履修条件・注意事項】グループ討議については、積極的に参加及び意見交換し、疑問点などがあれば質問をすること。

【オフィスアワー】講義後の休み時間及び昼休み時間（1号館事務室前）

【科目名】子育て支援

【教員名】美馬 愛子

【教員の実務経験】 有（保育士としての実務経験のある教員がその経験を生かし、演習を行う。）

無

【授業方法】 講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・2年・後期

【必/選・単位数(時間数)】必修・1単位（15時間）

【授業概要と目的】保育士の専門性を背景とした保護者に対する子育て支援について、その特性と展開を具体的に理解する。また、必要に応じて適宜話し合い活動等を取り入れ、理解の習得や主体的な態度の育成につなげていくことを目的とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（子育て支援）について、その特性と展開を具体的に理解できる。
2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術等実践事例等を通して具体的に理解できる。

【教科書】

小橋明子：子育て支援. 中山書店, 2020.

二宮祐子：子育て支援 15 のストーリーで学ぶワークブック・萌文書林, 2018

【成績評価】 定期試験（60%） 小テスト 課題レポート（10%）

その他（振り返りシート 30%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	保育士が行う子育て支援の特性・保護者との相互理解と信頼関係の形成	なぜ、保育所に子育て支援が必要になってきたのか、その背景を考え、保育士が行う子育て支援の特性や信頼関係（ラポール）を形成するために必要な知識や技術を学ぶ。	美馬 愛子
2	保育士が行う子育て支援の展開	カウンセリングマインドとは何かを学び、保護者に寄り添うために必要なスキルを理解する	〃
3	支援の実践（記録、評価、カンファレンス）	「記録」「評価」は何のためにあるのかを理解する。「カンファレンス」を行うことの意義について学ぶ。	〃
4	保育士の行う子育て支援とその実際	保育士の専門性とはどのようなことか考える。地域子育て支援とは何かについて考える。	〃
5	障がいを抱えた子どもと家族への支援	インクルージョンとはどのような保育かを学ぶ。障がいのある子どもを育てる保護者の心理を理解する。	〃
6	特別な配慮を要する子どもと家族への支援	保育における「気になる子」について考える。ひとり親家庭の現状や課題、支援サービスについて学ぶ。	〃
7	児童虐待・援助を拒む家庭（事例から学ぶ）	支援困難事例の背景について考える。児童虐待事例や援助を拒む家庭の支援の事例を通して具体的に学ぶ。	〃
8	諸外国の子育て支援 子育て支援の今後に向けて	日本と諸外国の子育てを比較して何が違うか考える。多様な支援ニーズが求められている保育士の質の向上に向けて必要なことは何か考えて発表する。	〃

【授業時間外の学習】予習及び復習は、各2時間程度行うこと。配付資料はファイル等にまとめること。

【履修条件・注意事項】話し合い活動等に積極的に参加すること。授業に取り組む姿勢については厳しく指導する。課題の提出期限を守ること。

【オフィスアワー】授業後の休み時間又は昼休み（1号館事務室前）

【科目名】保育実践演習

【教員名】園木 夏江

【教員の実務経験】 ■有（保育士としての実務経験のある教員がその経験を生かし、演習を行う。）  
□無

【授業方法】 □講義 ■演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・2年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】これまでの学習と実践の成果を振り返りながら、保育士に求められる資質と知識や技術の習得を検討する。また、模擬保育・討議・改善等を通して、自己にとっての課題を明確にし、保育の現場で求められる実践力を育成することを目的とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握することができる。
2. 模擬保育を通して保育の内容を討議し、課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得することができる。
3. 1及び2を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育の実際に際して必要となる基礎的な資質・能力を定着させることができる。

【教科書】なし

【参考書等】増田まゆみ他:保育・教育職の実践演習. 建帛社, 2014.

【成績評価】 □定期試験 □小テスト □課題レポート ■その他（指導案 60% 模擬保育 40%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	地域、社会に求められる保育士とは何か	実践を通して多様な視点から考察する。	園木 夏江
2	保育実践演習とは	授業内容の概要説明・課題の提示	〃
3	指導計画の作成	授業や実習での学びを踏まえ、指導計画を作成する。	〃
4	模擬保育①・討議・検討	戸外遊び・伝承遊び・ごっこ遊び	〃
5	模擬保育②・討議・検討	造形活動	〃
6	模擬保育③・討議・検討	自然にかかわる活動	〃
7	模擬保育④・討議・検討	音楽的表現活動	〃
8	模擬保育⑤・討議・検討	視聴覚教材に関する活動	〃
9	模擬保育⑥・討議・検討	行事にちなんだ活動①	〃
10	模擬保育⑦・討議・検討	行事にちなんだ活動②	〃
11	模擬保育⑧・討議・検討	3歳未満児対象の活動	〃
12	模擬保育⑨・討議・検討	子育て支援の活動	〃
13	模擬保育⑩・討議・検討	交通安全教育	〃
14	模擬保育⑪・討議・検討	遊具等を活用した活動	〃
15	まとめ	自己課題の再確認 学びの総括	〃

【授業時間外の学習】予習及び復習は、各2時間程度行うこと。配付資料はファイル等にまとめること。

【履修条件・注意事項】主体的・積極的な授業への参加を心がけること。話し合い活動等に積極的に参加すること。課題の提出期限を厳守すること。

【オフィスアワー】授業後の休み時間又は昼休み（1号館事務室前）

【科目名】教育相談

【教員名】姫田 知子

【教員の実務経験】有

無（公認心理師、臨床発達心理士の資格を有する教員が演習を行う。）

【授業方法】講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・2年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】多様化する子どもや保護者の問題を理解し、さまざまな場面に適切な対応ができるよう、教育相談に関わる基礎的な知識と技法について学ぶ。また、相談を受けるものとして自己理解を深め、人間的成長を図る。授業内では、講義だけではなく、事例検討やロールプレイなどを用いる。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 教育相談の基礎的な知識を習得し、相談対象となる子どもや保護者の理解を深めることができる。
2. 具体的な事例を検討することで、将来働く自分をイメージし、自身の意見や考えをもつことができる。
3. 教育相談を行う上での基本的態度やスキルを身に付けることができる。

【教科書】会沢信彦・安齊順子：教師のたまごのための教育相談(改訂版)．北樹出版, 2017.

【参考書等】授業内で適宜紹介する

【成績評価】定期試験 小テスト（30%）課題レポート（70%）その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	オリエンテーション	講義の概要、進め方、教育相談の対象者や概念について	姫田 知子
2	教育相談の理論と意義	現代の子どもをめぐる諸問題、教育相談理論について	〃
3	子どもの発達に関する理解①	発達段階ごとの課題について	〃
4	子どもの発達に関する理解②	特別な配慮が必要な子どもの概要と支援	〃
5	子どもの心と親子関係①	アタッチメントと発達について	〃
6	子どもの心と親子関係②	精神疾患の理論と支援	〃
7	教育相談の技法①	自分を知る-エゴグラム	〃
8	教育相談の技法②	カウンセリングの技法について	〃
9	教育相談の技法③	言語的スキル・非言語的スキル	〃
10	教育相談の実践①	カウンセリング的な聴き方について（事例検討）	〃
11	教育相談の実践②	上手な自己主張（アサーション）	〃
12	保護者理解と支援	保育・教育現場で起こりうる子どもや保護者の問題	〃
13	学級経営に生かす教育相談	現場の課題とアセスメント	〃
14	関係機関との連携と保育者の協働	多職種との連携と保育者間の協働の大切さ	〃
15	まとめ	講義の振り返りを行う。	〃

【授業時間外の学習】新聞やニュースなどで、子どもや家族、子育てに関連する話題や事件をチェックし、専門用語の意味を調べて理解しておくこと。また、配付資料のまとめ直しや授業内レポートの見直しにより、各2時間程度の予習・復習をすること。

【履修条件・注意事項】講義中の私語や関係ないことは控え、積極的な姿勢で取り組むこと。

【科目名】 幼児の観察と理解Ⅱ

【教員名】 友成 健悟、北原 君代

【教員の実務経験】 ■有（幼稚園教諭、保育士としての実務経験のある教員がその経験を生かし、教育実習に必要な知識や技術について体験談を交えながら演習する）

□無

【授業方法】 ■講義 ■演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】 保育学科・2年・前期

【必／選・単位数(時間数)】 必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】 幼児の観察と理解Ⅰの学修をもとに幼児理解を深め、教育実習（1回目）に向けて幼児の発達と幼児教育に必要な基礎的な知識と理解を深めていく。

【到達目標】 学生は以下のことをすることができる。

1. 幼児を観察し、教育実習（1回目）を通して保育教諭・幼稚園教諭に必要な基礎的知識を習得する。
2. 実習記録の作成・指導計画の立案を行い、教育・保育に必要な実践力を習得する。
3. 実習の事後指導を通して、実習の総括・自己評価を行い今後の課題を認識する。

【教科書】

文部科学省：幼稚園教育要領解説. フレーベル館, 2018.

内閣府、文部科学省、厚生労働省：幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説. フレーベル館, 2018.

幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド. わかば社, 2017. 保育場面と添削例から学ぶ！保育・教育実習日誌の書き方. 中央法規出版株式会社, 2020.

【参考書等】 適宜資料配付

【成績評価】 □定期試験 □小テスト ■課題レポート（30%）

■その他（発表30% 指導案10% 模擬保育20% 教科書10%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	オリエンテーション 幼児の観察と理解Ⅰ	授業内容についてオリエンテーションを行う。1年次の実習を振り返りながら教育実習の心得について考える。（自己PR・事前学習作成）	友成 健悟
2	指導案の作成	子どもの発達段階・発達過程を理解し、3・4・5歳児の指導案を作成する。	〃
3	模擬保育の準備	活動内容を子どもが理解できるような説明の仕方を考え、実践できるように準備をし、制作に必要な材料などの準備を行う。	〃
4	模擬保育	作成した指導案を実践する。	〃
5			〃
6			〃
7			〃
8			〃
9			〃
10	3.4.5歳児の発達について	実習期間に出会う保育場面を取り上げ、臨床の場で起こる子ども達の実態について理解していく。	北原 君代
11			〃
12	実習事後指導発表会 に向けての取り組み	実習終了後、クラスで互いに実習について、反省・学び等意見交換を行い、自分自身の実習を振り返る。パワーポイント作成に取り組む。 発表会に向けての準備、パワーポイント・資料等を作成する。（プレゼンテーションの技術向上）	友成 健悟
13			〃
14	まとめ	パワーポイントにまとめ、発表（クラス内）することで自己の学びを定着させる。また、仲間に伝達し、学びを共有する。	〃
15			〃

【授業時間外の学習】 予習及び復習は、各2時間行うこと。指導案・PP等の提出物は必ず期日までに提出する。

【履修条件・注意事項】 教科書とノート、筆記用具を持参する。

【オフィスアワー】 授業後の休み時間及び昼休み（友成・1号館事務室前）

【科目名】 幼児の観察と理解Ⅲ

【教員名】 友成 健悟

【教員の実務経験】 ■有（保育教諭としての実務経験のある教員がその経験を生かし、教育実習に必要な演習を行う。）

□無

【授業方法】 ■講義 ■演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】 保育学科・2年・後期

【必／選・単位数(時間数)】 必修・1単位（15時間）

【授業概要と目的】 幼児の観察と理解Ⅰ・Ⅱの学修をもとに豊かな心を育て、自己実現を図る幼児理解をさらに深め、教育実習（2回目）に向けて必要な心理、発達論的基礎知識を習得する。

【到達目標】 学生は以下のことをすることができる。

1. 幼児を観察し、教育実習（2回目）を通して教育・保育について総合的に理解する。
2. 実習記録の作成・指導計画の立案を行い実践し、よりよいものに改善する。
3. 実習の事後指導を通して、実習の総括・自己評価を行い今後の課題に取り組む。
4. 保育者（教育者）としての使命感や責任感を高め、資質の向上を目指す。

【教科書】

文部科学省：幼稚園教育要領解説. フレーベル館, 2018.

内閣府、文部科学省、厚生労働省：幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説. フレーベル館, 2018.

小櫃智子：幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド. わかば社, 2017.

小泉裕子：保育・教育実習日誌の書き方. 中央法規出版株式会社, 2020.

【参考書等】 適宜資料配付

【成績評価】 □定期試験 □小テスト ■課題レポート（30%）

■その他（発表30% 指導案20% 教科書20%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	幼児の観察と理解Ⅱ・教育実習Ⅰの振り返り	幼児の観察と理解Ⅱ・教育実習1回目を振り返り、成果と課題を考える。（自己PR・事前学習作成）	友成 健悟
2	責任実習の実際を検討	責任実習の映像を見ながら手順や準備物（環境構成）を再確認するとともに、グループワークを行う。	〃
3	日誌の書き方	予想される幼児の活動を想定しながら記入することで専門的配慮や援助法を習得できるようにする。	〃
4	事前準備・指導	実習の流れを理解し、必要な書類や実習先でのマナー等再度確認を行う。	〃
5	発表会に向けての取り組み	発表に向けての準備、パワーポイントや資料などを作成する。（プレゼンテーションの技術向上）	〃
6			〃
7	発表会	発表することで自己の学びを定着する。	〃
8	発表会・まとめ	授業・実習を通して、自分自身の課題を認識する。	〃

【授業時間外の学習】 予習及び復習は各2時間程度行う。指導案等の提出物は必ず期日までに提出する。

【履修条件・注意事項】 教科書とノート、筆記用具を持参する。

【オフィスアワー】 授業後の休み時間及び昼休み（1号館事務室前）

【科目名】 児童文化

【教員名】 友成 健悟

【教員の実務経験】 ■有（幼稚園教諭・保育士としての実務経験のある教員がその経験を生かし、演習を行う。）

□無

【授業方法】 ■講義 ■演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】 保育学科・2年・後期

【必／選・単位数(時間数)】 必修・1単位（15時間）

【授業概要と目的】 児童文化及び児童文化財とは何かを理解し、その意義を学ぶ。また、児童文化財の活用方法を学び、実体験したうえで、子どもが児童文化財等に親しむ環境構成及び具体的展開のための技術を修得することを目的とする。

【到達目標】 学生は、子どもの健全な心身の発達に関わる児童文化財の在り方や、具体的な技術、活動について理解し、実践することができる。

【教科書】 なし

【参考書等】 適宜資料配付

【成績評価】 □定期試験 □小テスト ■課題レポート（30%） ■その他（発表30% 提出物40%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	児童文化の世界①	児童文化とは何か、保育における児童文化の歴史や、子どもの育ちと児童文化の関係性について調べ、まとめる。	友成 健悟
2	児童文化の世界②	児童文化についてまとめた内容を発表し、お互いに学びを深める。	〃
3	日本伝統の児童文化財	様々な日本伝統の児童文化財に実際に触れる。子どもの育ちと絵本の関係性について考える。	〃
4	製作案の検討	絵本の世界をグループワークで深く理解する。また、その絵本の世界について子どもが興味関心をもてるような表現方法を検討する。	〃
5	製作①	各グループで製作し、「TomorrowLand」に向けて環境準備・設定を行う。	〃
6	製作②		〃
7	製作③		〃
8	振り返り まとめ	実践の振り返りを行い、今後の課題を明確にする。本科目のまとめを行う。	〃

【授業時間外の学習】 各回の内容を復習的に整理するとともに、次回の授業内容について資料等を読んで自分なりに考えておくこと。予習及び復習は、各2時間程度行うこと。

【履修条件・注意事項】 主体的・積極的に授業に取り組むこと。授業時に出された課題は提出期限を厳守すること。

【オフィスアワー】 授業後の休み時間又は昼休み（1号館事務室前）

【科目名】 幼児体育

【教員名】 河野 磨

【教員の実務経験】 ■有（保育園・認定こども園で体操教室を指導している経験を有する教員がその経験を生かし、演習を行う。）

□無

【授業方法】 ■講義 ■演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】 保育学科・2年・後期

【必／選・単位数(時間数)】 必修・15時間

【授業概要と目的】

1. 幼児期に体を動かす重要性を理解し、運動あそびの指導方法を学ぶ。
2. 幼児期の発達・発育過程を理解し、それに応じた指導方法を学ぶ。
3. 幼児期のマット運動、跳び箱、鉄棒の指導方法を学ぶ。

【到達目標】 学生は、①～③を理解し、運動・あそびの指導計画書を作成し実践できる。

【教科書】 鐘ヶ江 淳一: 幼児体育Ⅱ. 近畿大学短期大学, 2021.

【参考書等】 前橋 明: 幼児体育指導動ガイド. 日本幼児体育学会大学教育出版,

【成績評価】 □定期試験 □小テスト □課題レポート ■その他(理解度テスト80% 模擬演習20%)

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	オリエンテーション 器械・器具を使うあそび の特性とその展開	シラバスの説明、マット運動あそびの実践	河野 磨
2	鉄棒運動あそび	鉄棒運動あそびの実践	〃
3	跳び箱運動あそび	跳び箱運動あそびの実践	〃
4	平均台運動あそび	平均台運動あそびの実践	〃
5	フラフープ運動あそび 指導案作成と練習①	フラフープ運動あそびの実践 指導案作成と練習①	〃
6	指導案作成と練習②	1～5回目の講義内容でのテストと運動指導計画書の作成②	〃
7	模擬演習①	指導案を実践する (グループ発表)	〃
8	模擬演習②	指導案を実践する (グループ発表)	〃

【授業時間外の学習】

実技は休むことがないように、自己の健康管理に気を付ける。実技で行った運動は動作の確認とアウトプットできるように練習しておく。予習及び復習は、2時間程度行う。

【履修条件・注意事項】

- ・実技は運動できる服装で受講し積極的に参加する（跳び箱・マット運動・鉄棒等は実際に行ってもらう）。イヤリング・ネックレスは外しておく。長い髪は束ねておく。爪は切っておく。
- ・講義は集中して話を聞く、質問は積極的に行う。
- ・実技・講義中はスマホ禁止。守れない場合は授業前に回収する（急な用事の場合は考慮する）。
- ・模擬演習の指導担当をしない場合、演習評価は0%とする。

【科目名】言語表現

【教員名】山地 貴子

【教員の実務経験】 有（保育士としての実務経験のある教員がその経験を生かし、演習を行う。）  
無

【授業方法】 講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・2年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】学生は、保育内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な言語表現に関する知識や技術について学ぶ。実際に保育教材を協働的に製作し、披露することで実践力の向上を目指す。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 言語表現に関する基礎的な知識や言語表現技術を中心とする遊びの意義と方法を理解する。
2. 言語表現技術を意識した計画作成や実践を通して、言語的な表現力を身につける。
3. 保育に生かせる子どもの育ちにとって望ましい言語表現技術を使いこなす。

【教科書】なし

【参考書等】適宜資料配付

【成績評価】 定期試験 小テスト 課題レポート（20%） その他（教材20% 発表60%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	幼児期の教育と言語表現	オリエンテーション 幼児期の教育の重要性と言語表現について学ぶ。	山地 貴子
2	言語表現	絵本、紙芝居、素話など、言語表現活動に関する知識や技術を学ぶ。	〃
3	題材の決定	児童福祉施設での実践を見据え、内容を検討し、役割分担をする。	〃
4	準備・練習①	実践する環境を整え、打ち合わせ及び準備を行う。	〃
5	準備・練習②		〃
6	実践	児童福祉施設で子ども達に配慮しながら、実践する。	〃
7	振り返り 題材の決定	実践を振り返り、改善点を明確にする。また、発表会を見据え、題材と内容を討議する。	〃
8	打ち合わせ・準備	役割分担をし、保育教材を作成する。	〃
9	準備・練習②	必要な保育教材を作成及び準備をし、進捗状況に合わせて練習・改善をする。	〃
10	準備・練習③		〃
11	グループ発表	各グループで作成した保育教材を実践披露する。	〃
12	改善・修正	発表会に向けて表現方法等について意見を出し合って修正し、改善していく。	〃
13	前日準備	練習等の進捗状況を確認しながら、会場準備も併せて行っていく。	〃
14	発表会	準備した保育実践を子ども達の前で披露する。	〃
15	まとめ	活動を振り返り、課題と展望を明確にする。	〃

【授業時間外の学習】取り扱った内容は復習的に整理し、次回の講義内容についても考えておくこと。また、授業時間外でも児童文化に触れること。予習及び復習は各2時間程度行うこと。

【履修条件・注意事項】実技・制作・討議等は積極的に取り組むこと。提出物のメ切りは厳守すること。

【オフィスアワー】授業後又は休み時間（1号館事務室前）

【科目名】保育実習Ⅱ

【教員名】美馬 愛子

【教員の実務経験】■有（保育士としての実務経験のある教員がその経験を生かし、実習に必要な指導及び助言を行う。）

□無

【授業方法】□講義 □演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・2年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（90時間）

【授業概要と目的】学生が、保育所（園）及び認定こども園での実践を通して、保育所の社会的役割や機能について理解を深める。また、多様な保育の展開と保育士の業務や職業倫理について実践を通して理解し、自己の課題を明確にする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。
2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。
3. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。
4. 保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。
6. 実習における自己の課題を明確化する。

【教科書】小櫃智子・守巧他：改訂版幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド. わかば社, 2023

【参考書等】

内閣府、文部科学省、厚生労働省：幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説. フレーベル館, 2018.  
厚生労働省：保育所保育指針解説. フレーベル館, 2018.

【成績評価】□定期試験 □小テスト □課題レポート ■その他（施設評価 50% 学校評価 50%）

【授業計画】

1. 保育所の役割や機能の具体的展開
  - (1) 養護と教育が一体となって行われる保育
  - (2) 保育所の社会的役割と責任
2. 観察に基づく保育の理解
  - (1) 子どもの心身の状態や活動の観察
  - (2) 保育士等の援助や関わり
  - (3) 保育所の生活の流れや展開の把握
3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携
  - (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育
  - (2) 入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援
  - (3) 関係機関や地域社会との連携・協働
4. 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価
  - (1) 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解
  - (2) 作成した指導計画に基づく保育の実践と評価
5. 保育士の業務と職業倫理
  - (1) 多様な保育の展開と保育士の業務
  - (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理
6. 自己の課題の明確化

【授業時間外の学習】その日の気付きや学びを実習日誌等にまとめること。予習及び復習は、各2時間程度行うこと。

【履修条件・注意事項】実習に相応しい服装と身だしなみを整えること。実習態度については、厳しく指導する。提出物については、期限厳守すること。不測の事態等があった際には、担当保育者及び担当教員に連絡すること。

【オフィスアワー】方法と時間については実習前に連絡する。

【科目名】保育実習事前事後指導Ⅱ

【教員名】美馬 愛子

【教員の実務経験】■有（保育士としての実務経験のある教員がその経験を生かし、保育実習に必要な演習を行う。）

□無

【授業方法】■講義 ■演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・2年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】学生は、保育実習Ⅱの目的を明確にし、保育の計画の作成、実践、記録など実践的な内容を理解する。また事後指導を通して、実習の総括と自己評価、保育に対する課題や認識を明確にすることを目的とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。
2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を習得する。
3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

【教科書】小櫃智子・守巧他:改訂版幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド. わかば社, 2023

【参考書等】

内閣府、文部科学省、厚生労働省：幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説. フレーベル館, 2018.

厚生労働省：保育所保育指針解説. フレーベル館, 2018.

適宜資料配付

【成績評価】□定期試験 □小テスト □課題レポート ■その他（事前課題 50% 事後課題 50%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	保育実習の意義と目的、実習の課題	実習の意義や目的、内容を理解し、自らの実習課題を明確にする。また、保育士の専門性や職業倫理等、保育について総合的に理解する。	美馬 愛子
2	事前訪問の準備	実習日誌等の記録の仕方を改善していく。また、自己PRを作成し、実習目標を明確にする。	〃
3	記録の書き方	より良い実習日誌の書き方について理解する。	〃
4	指導計画・実習計画の作成	事前訪問での知識を生かし、具体的な指導計画を作成する。また、今回の実習目標を具体的にイメージし、計画を作成する。	〃
5	指導計画の実践①	指導案の実践を通して、保育内容の改善点を明確にする。	〃
6	指導計画の実践②		〃
7	指導計画の実践③		〃
8	指導計画の実践④		〃
9	指導計画の実践⑤		〃
10	指導計画の実践⑥		〃
11	実習前確認	提出物や実習中の対応の仕方等を確認し、実習に向けての準備を行なう。	〃
12	実習での学びの整理	他者の実習での学びを共有し、自己の実習内容について整理する。	〃
13	実習事後の考察と反省	実習内容を振り返り、資料作成を通して、実習での学びを整理することで新たな気づきを得る。	〃

14	自己の実習課題の 明確化	実習内容をまとめ、自己の学び、保育に対する課題や目標を明確にする。	美馬 愛子
15	実習発表会準備 課題の明確化	実習内容をまとめ、ポスター発表に向けて意見交換を行い、課題を明確にする。	〃

**【授業時間外の学習】** 専門職を志す者として、適切な生活習慣、言葉遣い、態度を日常的に意識すること。また、配付資料はファイリングして丁寧に管理すること。予習及び復習は各2時間程度行うこと。

**【履修条件・注意事項】** 提出物については期日厳守。実習を見据え、自覚と責任感を持って真摯に授業に取り組むこと。

**【オフィスアワー】** 授業後の休み時間及び昼休み（1号館事務室前）

【科目名】人形劇

【教員名】美馬 愛子

【教員の実務経験】 ■有（保育士としての実務経験のある教員がその経験を生かし、演習を行う。）  
□無

【授業方法】 □講義 ■演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・2年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位（30時間）

【授業概要と目的】学生は、人形劇等の表現活動を通して、子どもの生活や遊びを総合的に捉え、保育を展開していくための方法や必要な知識、技術を習得することを目的とする。また、人形の基本的な仕組みや演技方の技術を学び、実演を通して表現力を身に付ける。

【到達目標】人形劇の意義や演技方を学び、指導方法を身に付けることを目標とする。学生は、人形劇にまつわる諸道具の理解を図り、それらの製作等を通じて児童文化としての人形劇の役割や子どもの遊びを豊かに展開するための表現活動の在り方を理解することができる。

【教科書】なし

【参考書等】適宜資料配付

【成績評価】 □定期試験 □小テスト ■課題レポート（40%） ■その他（発表60%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	人形劇とは	人形劇を鑑賞し、人形の基本的な仕組みや演技方を知る。	美馬 愛子
2	テーマの設定 台本作成	テーマの設定、内容、構成をグループで検討し、台本を作成する。	〃
3	台本の読み稽古	台本の読み稽古を通して声色表現や抑揚等、表現することを身に付ける。	〃
4	人形の表現	人形を実際に動かし、基本的動作や技術を学ぶ。	〃
5	人形操作①	人形の動きをグループで検討する。	〃
6	人形操作②	人形の動きや表現の仕方等を確認し、グループで検討する。	〃
7	立ち稽古と人形操作	舞台上での立ち稽古を進めながら、劇中の効果音や音楽を検討していく。	〃
8	場面ごとの動き等の確認	舞台上で場面ごとの人形操作の確認や表現の仕方、立ち位置等、グループで検討する。	〃
9	実践練習①	実践練習を繰り返し、課題を取り上げ検討する。	〃
10	実践練習②		〃
11	実践練習③	グループ間で発表し、それぞれの人形劇の評価をする。	〃
12	人形劇実演	人形劇の実演を通して、表現力を身に付ける。	〃
13	実践練習①	表現活動の実践を繰り返し行い、表現力を養い、課題を取り上げ検討し改善する。	〃
14	実践練習②	人形劇の実演を通して表現力を身に付ける。	〃
15	まとめ	これまでの授業を振り返り、人形劇の意義や実践したうえでの自らの課題を抽出する。実践を振り返り、保育現場に活かせるにはどのようにするべきか、子どもの視点に立って考える。	〃

【授業時間外の学習】授業の内容を発展させ、自分で課題を持って学習したり、活動したりすること。予習及び復習は、各2時間程度行うこと。

【履修条件・注意事項】主体的・積極的な授業への参加を心がけること。話し合い活動等に積極的に参加すること。課題の提出期限を厳守すること。

【オフィスアワー】授業後の休み時間及び昼休み（1号館事務室前）

【科目名】食育Ⅰ

【教員名】田中 育美、天羽 貴子、西良 早矢香、友成 健悟

【教員の実務経験】■有（幼稚園教諭、保育士としての実務経験のある教員（田中・友成）  
実務経験のある管理栄養士（天羽・西良）が保育士に必要な食育に関する演習を行う。）

□無

【授業方法】■講義 ■演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・2年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位（15時間）

【授業概要と目的】学生が、日本の食文化、現代の食育事情（アレルギー食・非常食など）について知識を深めるとともに、子どもに応じた食育の指導に触れることで、子どもの健やかな体づくりの要である食育の重要性について理解することを目的とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 現場職員の講義や体験・実習を通して、食育とは何かを考え、日本の食文化について理解する。
2. 園児との調理体験を通して、食育指導のあり方を習得する。

【教科書】なし

【参考書等】適宜資料配付

【成績評価】□定期試験 □小テスト ■課題レポート（25%） ■その他（実習・振り返り 75%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	食育とは何か	現代の食育（食事）事情や保育現場での取り組みを交えながら、食育とは何かを考え、調べる。	友成 健悟
2	日本の食文化について①	食育を通して、日本の文化について理解を深め、茶道の体験をする。	田中 育美
3	日本の食文化について②		〃
4	災害時の対策と非常食について①	認定こども園における栄養士の役割を知り、災害時の対策と非常食について学ぶ。また、非常食の調理実習を行う。（調理実習）	天羽 貴子
5	災害時の対策と非常食について②		〃
6	子どもとできるクッキング①	野菜栽培や調理活動など、食に興味をもつための活動や旬の食材をはじめ、四季の恵みをたっぷり取り入れた食育活動について学ぶ。（調理実習）	西良 早矢香
7	子どもとできるクッキング②		〃
8	振り返り・まとめ	これまでの体験と学びを振り返り、自分の考える食育についてまとめる。後期の『食育Ⅱ』の授業につなげる。	友成 健悟

【授業時間外の学習】絵本やテレビ、新聞などを通して、食育に関する情報に関心を持ち、講義内容と関連付けながら予習及び復習を各2時間程度行う。

【履修条件・注意事項】園を訪問する際は、挨拶、服装、身だしなみ等に気をつける。また、調理実習時はエプロン、三角巾、マスク等を持参し着用する。

【オフィスアワー】授業後の休み時間及び昼休み（友成・1号館事務室前）

【科目名】食育Ⅱ

【教員名】友成 健悟

【教員の実務経験】■有（保育教諭としての実務経験のある教員がその経験を生かし、講義と演習を行う。）

□無

【授業方法】■講義 ■演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・2年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位（15時間）

【授業概要と目的】幼少期からの食育の重要性を理解するとともに、子どもたちにさまざまな表現方法で食の大切さを伝え、年齢に応じた食育指導ができるよう知識と技術を身につけることを目的とする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 子どもの発達段階に応じた食育・食事指導の在り方について理解する。
2. さまざまな表現技法を使い、子どもたちに食育の大切さを伝える。

【教科書】なし

【参考書等】適宜資料配付

【成績評価】□定期試験 □小テスト □課題レポート

■その他（個別の計画 25%）（振り返りレポート 25%）（計画・準備・発表 50%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	食育について 食事指導の在り方	『食育Ⅰ』を振り返り、食育の重要性についての理解を深める。 保護者や子ども（園児）に対しての食事指導、食事相談について考える。（アレルギー食など）～どのような方法で、どのような指導をするのが望ましいのか～	友成 健悟
2	食の大切さを伝える 様々な方法について考える	『食育Ⅰ・Ⅱ』で学んだことを活かし、いろいろな表現技法を使って、子どもたちに食の大切さを伝える内容を考え（ゲーム、製作、クッキング等）指導案を作成する。	〃
3	連携授業実践内容を決定する	前回立てた指導案を一人一人発表し、発達に合ったもの、子どもが理解し楽しめるものであるかなど意見を出し合い、食育遊びを決定し、グループ分けを行う。	〃
4		作成した指導案をもとに、ねらいや動内容を見直し、役割分担を行い、準備等に取りかかる。	〃
5			〃
6	リハーサル準備	幼児の発達、年齢に合った声かけや援助の仕方をグループ全員が把握し、模擬的にリハーサルを行う。	〃
7	実践	幼児の発達、年齢に合ったいろいろな表現技法で交流しながら食の大切さを伝える。	〃
8	振り返り	実施後、授業の振り返りを行う。	〃

【授業時間外の学習】食育に関する情報に関心を持ち、講義内容と関連付けながら予習及び復習は、各2時間程度行う。

【履修条件・注意事項】園児との交流に必要な教材は学校で準備するが、段ボール等は各自で準備する。

【オフィスアワー】授業後の休み時間及び昼休み（1号館事務室前）

【科目名】まなび学Ⅱ

【教員名】美馬 愛子、友成 健悟

【教員の実務経験】有

■無（保育士としての実務経験のある教員がその経験を生かし、演習を行う。）

【授業方法】講義 ■演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・2年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位（15時間）

【授業概要と目的】学生自らが主体となり、興味関心のあるテーマを決定し、研究目的や研究方法、調査等、研究内容を遂行していく。探求心を持ち、研究調査や自らの実践を省察することができる実践力を身に付けることを目指す。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 疑問に思ったこと、知りたいことについて、情報収集、分析する能力を身に付ける。
2. グループでの共同作業では一人一人が責任を持って臨み、自らが主体的、意欲的に取り組み協働性を身に付ける。
3. 教育に携わる使命感や責任感、倫理観を身に付ける。

【教科書】なし

【参考書等】適宜資料を配付する。

【成績評価】定期試験 小テスト ■課題レポート（50%）

■その他（研究計画書 25% 発表 25%）

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	保育技術の向上①	子どもの心と体、それを取り巻く環境を理解し、専門的な知識・技術を身に付ける。また、保育者の援助について学ぶ。	美馬 愛子
2	保育技術の向上②		〃
3	研究テーマ 研究計画の立案	自らの研究テーマについて、目的や背景、研究手法、研究の意義等を考える。計画に基づいた研究が実施できるように準備を行う。	美馬 愛子 友成 健悟
4	研究内容の情報収集①	自らの研究テーマに関する情報を集積する。	〃
5	研究内容の情報収集②		〃
6	研究内容の中間発表	研究テーマに基づいた研究計画の中間発表を実施し、他者と意見交換を行うことで課題や改善点に気付く。	〃
7	ポスター発表会①	発表することで自己の学びや目標を明確にする。質問内容に回答できるように考えをまとめておく。	美馬 愛子
8	ポスター発表会②	発表することで自己の課題に気付く。	〃

【授業時間外の学習】予習及び復習は各2時間程度行うこと。配付資料はファイル等にまとめておくこと。

【履修条件・注意事項】主体的・積極的な授業への参加を心がけること。話し合い活動等に積極的に参加すること。研究に取り組む姿勢については厳しく指導する。課題の提出期日は守ること。

【オフィスアワー】授業終了後の休憩時間（1号館事務室前）

【科目名】まなび学Ⅱ

【教員名】美馬 愛子、友成 健悟

【教員の実務経験】有

無（保育士としての実務経験のある教員がその経験を生かし、演習を行う。）

【授業方法】講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】保育学科・2年・後期

【必/選・単位数(時間数)】必修・1単位（15時間）

【授業概要と目的】学生自らが主体となり、研究テーマを遂行しながら課題を見つけ、その課題を解決するための方法を考え検討していく。研究内容の成果をまとめて発表し、自らの課題を明確にする。

【到達目標】学生は以下のことをすることができる。

1. 疑問に思ったこと、知りたいことについて、情報収集、分析する能力を身に付ける。
2. グループでの共同作業では一人一人が責任を持って臨み、自らが主体的、意欲的に取り組み協働性を身に付ける。
3. 教育に携わる使命感や責任感、倫理観を身に付ける。

【教科書】なし

【参考書等】適宜資料配付

【成績評価】定期試験 小テスト 課題レポート(20%) その他(発表資料40% 発表40%)

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	子育て支援の展開①	子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を実践し、理解する。	美馬 愛子
2	子育て支援の展開②		〃
3	研究内容の情報収集 実践・分析	研究テーマに関する情報を集積し、分析する。	美馬 愛子 友成 健悟
4	研究内容の情報収集 実践・分析・検討	研究テーマに関する情報を集積、分析し、グループ討議を重ね検討する。	〃
5	研究内容のまとめ	グループ討議を行い、工夫を凝らしながら研究内容をパワーポイントや模造紙等にまとめ、発表内容を整理する。	〃
6	研究発表会①	発表原稿等を整理して研究発表に臨み、プレゼンテーションについて学びを深める。	〃
7	研究発表会②	研究内容の伝えたいポイントを一人一人が熱意をもって発言する。	〃
8	研究発表会③ まとめ	他者からの質疑や意見交換を通して、研究内容の省察や課題に気付く。	〃

【授業時間外の学習】予習及び復習は各2時間程度行うこと。配付資料はファイル等にまとめておくこと。

【履修条件・注意事項】主体的・積極的な授業への参加を心がけること。話し合い活動等に積極的に参加すること。研究に取り組む姿勢については厳しく指導する。課題の提出期日は守ること。

【オフィスアワー】授業終了後の休憩時間（1号館事務室前）

